

長野県住生活基本計画(案)の概要

住宅施策を取り巻く現状と課題

〔計画期間〕平成28年度(2016年度)～平成37年度(2025年度)

少子高齢化、人口・世帯数減少社会への対応 (P.3～)

現状

- ◇住宅の量は充足、世帯数との差は次第に拡大
- ◇人口は既に減少、世帯数も今後は減少する見込み
- ◇少子高齢化は一段と進展する見込み

課題

- ◆住宅ストック活用型社会への転換と空き家対策
- ◆居住ニーズとの不一致の解消
- ◆進展する少子高齢社会に応じた居住環境の整備

住宅数と世帯数 [住宅・土地統計調査]
 (千戸・千世帯) 住宅数(青)と世帯数(赤)の推移。H25年時点で住宅数982千戸、世帯数786千世帯。

人口と年齢構成 [H22までは国勢調査、H27は長野県毎月人口変動調査、H32以降は国立社会保障・人口問題研究所推計(H26.4)]
 (千人) 人口総数(青)、年少人口割合(赤)、老年人口割合(緑)の推移。H25年時点で人口2,097千人、年少人口割合10.4%、老年人口割合36.0%。

地域の資源を活かした環境にやさしい住まいづくり (P.15～)

現状

- ◇新設木造住宅の県産木材利用は一定量で推移
- ◇省エネルギー化された住宅ストックは限定的

課題

- ◆地域資源の利活用による地消地産の住まいづくり
- ◆既存住宅の省エネルギー化の一層の促進

新設木造住宅における木材使用量と県産木材製品出荷量 [住宅着工統計、長野県木材統計]
 (千m³) 木材使用量(青)、県産木材建築用材製品出荷量(赤)、木材使用量に対する県産木材出荷量の比率(緑)の推移。H26年時点で木材使用量30.1千m³、県産木材出荷量45千m³、比率15.0%。

住宅への省エネルギー機器等の設置状況 [住宅・土地統計調査]
 (千戸) 太陽熱を利用した温水機器等あり(青)、太陽光を利用した発電機器あり(赤)、二重サッシ又は複層ガラス(すべての窓)(緑)、二重サッシ又は複層ガラス(一部の窓)(黄)の設置状況。H25年時点で太陽熱温水機器等あり58.6千戸、太陽光発電機器あり49.8千戸、すべての窓に二重サッシ又は複層ガラス188.2千戸、一部の窓に二重サッシ又は複層ガラス231.4千戸。

災害に強く快適で健康な住まいづくり (P.19～)

現状

- ◇住宅の耐震化率は77.5%
- ◇高齢者等対応設備がある住宅は59.3%

課題

- ◆耐震化の一層の促進と安全・安心な住まいづくり
- ◆健康長寿のための快適・健康な住まいづくり

住宅の耐震化の状況 [H25住宅・土地統計調査から推計]
 耐震性不十分(S55年以前建設)176千戸(22.5%)、耐震改修済み(S55年以前建設)37.2千戸(4.7%)、耐震性あり(S55年以前建設)40.4千戸(5.2%)、耐震性あり(S56年以降建設)529.4千戸(67.6%)。

高齢者等のための設備がある住宅の割合 [住宅・土地統計調査]
 (%) 全体(青)、持家(赤)、貸家(緑)の割合。H25年時点で全体72.2%、持家72.2%、貸家25.3%。

誰もが安心して暮らせる住まいの提供 (P.23～)

現状

- ◇公営住宅入居世帯は、高齢者世帯(特に単身・夫婦のみ世帯)が増加
- ◇公営住宅の1/3が耐用年数を経過

課題

- ◆住宅セーフティネットの充実
- ◆公営住宅の計画的な建替や改修等による長寿命化

公営住宅入居世帯の状況 [建設部まとめ]

区分	H28.4.1		H23.4.1		増減	
	世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比
入居世帯	27,422		30,361		△ 2,939	
高齢者世帯	単身	6,724 (24.5%)	5,950 (19.6%)	774 (4.9%)		
	夫婦のみ	1,901 (6.9%)	1,621 (5.3%)	280 (1.6%)		
	その他	2,566 (9.4%)	2,475 (8.2%)	91 (1.2%)		
	合計	11,191 (40.8%)	10,046 (33.1%)	1,145 (7.7%)		
障がい者世帯	3,820 (13.9%)	3,372 (11.1%)	448 (2.8%)			
ひとり親世帯	3,613 (13.2%)	4,321 (14.2%)	△ 708 (△ 1.1%)			
外国人世帯	1,407 (5.1%)	1,810 (6.0%)	△ 403 (△ 0.8%)			

公営住宅の管理状況 [建設部まとめ] (H28.4.1現在)
 (戸) 耐用年数経過(赤)、未経過(青)の状況。県営計15,248戸(経過3,948戸25.9%、未経過11,300戸74.1%)、市町村営計17,712戸(経過7,204戸40.7%、未経過10,508戸59.3%)、全体計32,960戸(経過11,152戸33.8%、未経過21,808戸66.2%)。

地域の特性に応じた活力あるまち・むらづくり (P.26～)

現状

- ◇増加する空き家で防災・衛生・景観等の悪化の懸念
- ◇過疎地域における少子高齢化が顕著

課題

- ◆既存住宅の有効活用と状況に応じた除却・建替え
- ◆景観育成等による個性豊かな特色ある地域づくり

空き家の状況 [住宅・土地統計調査]
 (千戸) 二次的住宅(別荘等)(青)、賃貸用又は売却用の住宅(赤)、その他の住宅(非流通)(緑)、空き家率(紫)の推移。H25年時点で空き家率19.8%、二次的住宅(別荘等)を除いた空き家率14.6%。

高齢者、年少者の割合 [企画振興部まとめ]
 (%) 高齢者(65歳以上)(赤)、年少者(15歳未満)(青)の割合。H22年時点で高齢者36.2%、年少者10.8%。

地域の住まいを支える住生活産業の成長・発展 (P.11,30～)

現状

- ◇「信州らしい住まい」への共通イメージ
- ◇木造住宅建設の担い手である大工等技術者は減少

課題

- ◆地域に根ざした良質な住まいづくり
- ◆その担い手の確保・育成や技能・技術の継承

「信州らしい住まい」のイメージ [H27住まいに関する県民アンケート(建設部)]

イメージ	キーワード
自然と調和した住まい	自然豊か(水、空気、緑、山、森林)、自然素材、景観等
木を活かした住まい	木造、県産材、まきストーブ、生垣、庭木等
農業を取り入れた住まい	家庭菜園、田園風景、自給自足、農家住宅等
伝統、文化と調和した住まい	古民家、和風、地域文化、旧街道、田舎の原風景、昔ながら、在来工法等
寒冷地に適した住まい	高断熱、冬寒くない、床暖房、雪に強い等
あたたかい交流のある住まい	近所付き合い、世代間交流、三世同居、縁側等
ゆとりのある住まい	一戸建て、隣家との間隔が広い、駐車場が広い、広い間取り、庭等
自然エネルギーを活用した住まい	高い晴天率、太陽光・太陽熱、通風等

現在の住まいの評価 [H27住まいに関する県民アンケート(建設部)]
 (%) 悪くなっている(9%)、やや悪くなっている(18%)、どちらともいえない(36%)、無回答(1%)、良くなっている(22%)、やや良くなっている(14%)。

大工の就業者数 [国勢調査]
 (人) 大工の就業者数の推移。H22年時点で約10,000人。

長野県住生活基本計画(案)の概要 目標と施策体系

【計画期間】平成28年度(2016年度)～平成37年度(2025年度)



基本理念 ～信州の住みよい暮らしを次代につなぐ～
安心ですこやか、多様な暮らしを支える住まいをめざして

基本的な視点

- 少子高齢化、人口・世帯数減少社会への対応
- 地域の特性や実情への配慮
- 暮らしに関わる他分野との連携

